

卓 話

平成 14 年 2 月 19 日

【スペイン旅行】

武藤 公典 会員

先月の末から今月初旬にかけて6泊7日、飛行機泊を入れて8日間のスペイン旅行に行ってきました。まとまった話ではありませんが、旅の印象といったテーマで話してみたいと思います。

まず、このツアーに参加した理由はいろいろありますが、一番大きなものは、格安の料金だったことです。6泊7日のホテル代、道中のバス代、往復の飛行機代すべて入れて、なんと7万9千8百円でした。私は1人部屋をお願いしたので、プラス1万円で、まあ9万円ということでしょうか？格安の料金です。



スペインは、山地の荒地が多く、緑に恵まれた地帯はわずかで、もともとは貧しい国だとの印象でした。

しかし、同行の女性の皆さんが、スーパーで買い物をした話によると日本よりは、格安の価格だそうです。平均給与は15~16万ぐらいだそうです、日本よりは、やはり安い。教育費（義務）は全額無料です。ただし、学校で給食を受ける場合は別途1万円が必要です。従って大部分の家庭では昼食は自宅で済ますようだ。朝登校時になると、母さんが子どもを連れて学校へ向かう姿が市街のあちこちで見られます。集団登下校もなく、各家庭ごとに子どもを連れて行くのですが、昼も同じことです。1日4回、母子が連れだって登下校をするわけです。日本にはない姿を見せられて、感銘を受けました。

違いの最たるものは、年金です。すべての人が若い時、働いていた給与の80%をもらうことができるのだそうです。ボーナスも同じです。もちろん、30年以上この国で働いて税金を完納したものに限ることは、いうまでもありません。

年金受給資格＝定年（60歳？）をみんなが、待ち望んでいます。外国人で海外旅行へ出掛けるのは老人が多い理由は、ここでしょう。

日本へ帰ったら、新聞には「デフレ対策を」「インフレへ数値目標を」という見出しが、躍っていました。いろいろと考えさせられた旅行でした。